

登山月報

| | |
|----------------------------|----|
| 第65回ゆめ半島千葉国体報告 …… | 1 |
| The Expedition Day を開催 …… | 4 |
| 新連載 Mountain World 第23回 …… | 5 |
| 2010年度国際山岳連盟 UIAA 総会報告… | 6 |
| 中年安全登山指導者講習会(西部地区) 報告… | 7 |
| キルギス通信第3回 …… | 9 |
| SC上級指導員養成講習会福井報告… | 11 |
| JMA、寄贈図書、編集後記 …… | 12 |

第65回ゆめ半島千葉国体山岳競技会を開催 —千葉県が2年連続男女総合優勝をかざる—

競技委員長 高山 雅夫



常陸宮同妃両殿下御臨席

第65回ゆめ半島千葉国体山岳競技会は、去る10月2日～4日にかけて千葉県印西市松山下公園総合体育館で開催されました。リード競技は体育館内のメインアリーナの常設壁で、またボルダリング競技は体育館内のサブアリーナの仮設壁で実施され、リード競技、ボルダリング競技ともに空調完備の完備された屋内で開催されたことは、国体山岳競技史上初めてでした。

初日の少年女子のリード競技予選には、常陸宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、約20分間リード競技を観戦され、競技の方法などについて非常に熱心にご

質問をされていました。

今年は、リード競技が屋外開催ではなく屋内開催であったため、天候に左右されることなく全競技日程をほぼ予定通りに実施することができました。大会中はぐずついた空模様の予報でしたが3日間とも好天に恵まれ、地元印西市内や千葉市内の小、中学校を始め多くの観客が会場を訪れ、選手のパフォーマンスに一喜一憂しました。特に今年のワールドゲームズにアジア代表として出場し優勝した安間佐千選手や、今年のIFSC年間世界ランキングでボルダリング3位の堀創選手、今年の5月にウイーンで行われたボルダリング・ワールドカップで16歳での初出場でいきなり世界2位になった山口県少年女子の小田桃花選手など日本を代表する有名選手が数多く出場したため、非常にハイレベルな争いとなり会場が大変盛り上がりました。

また、昨年の新潟国体から中学3年生が初めて参加できる大会となりましたが、今年も少年男子に1名、少年女子に11名の中学3年生が出場し、リード競技決勝に少年男子が1名、少年女子が6名残り、ボルダリング競技決勝にも少年女子の中学3年生が5名残りました。特に少年女子千葉県代表であるちはら台南中の竹内彩佳選手は、今年8月に行われた



少年男子ボルダリング優勝の千葉県（羽鎌田・村井）



成年男子ボルダリング優勝の栃木県（安間・芝田）

JOCジュニアオリンピックカップで中学3年生ながら女子総合優勝を果たした選手であり、今回の決勝の個人順位でL競技3位、B競技6位と高校生の強豪選手に混じって大活躍を見せたのが印象的でした。今後さらに競技年齢の低年齢化が加速するのではないかと考えられます。

今年は、昨年に引き続き47都道府県揃っての大会となりましたが、ブロック大会不参加の県が若干ありました。来年度はブロック予選へ各都道府県から3種別全てのチームが出場するよう選手の選考をよろしくをお願いします。

また、昨年から出場する選手、監督に対して新たにユニフォーム規程を設けましたが、今年度も一部のチームで規程を守らずにイエローカードを提示されたチームがあったことは残念でした。国体山岳競技はチーム競技ですので、競技中の選手は最低限ユニフォームの上は色と形を揃えて下さい。ユニフォームのロゴについても規程をよく確認して下さい。表彰式では必ず都道府県の正式ユニフォームの着用をお願いします。

成績速報ですが、今年から会場内の速報板に1チームの競技が終了したらすぐに仮成績を発表し、さらに現時点での1位から8位までの仮のチーム順位がわかるようにプロジェクターで投影しました。途中から観戦された方にもその時点での暫定順位がわかりやすくとても好評でした。

平成20年大分国体から日山協公認資格を持ったルートセッターやクライミング審判員、競技運営員がルートセットや審判、競技役員等をするようになり、今大会でもルートセットやジャッジの結果、運営面に対するクレームはかなり減少したと思われます。

★リード競技（L競技）について

競技時間は予選は6分、決勝は7分で実施され、コンパネで作られた上部可動の可動壁2面で行われ、左右2面は同一形状、同一ルート（同一グレード）でした。

リード競技のグレードについては以下の通りです。昨年とほぼ同じでしたが、成年女子、少年男子予選と少年女子決勝は若干難易度が上がりました。

千葉県国体

| (平22) | 成年男子 | 成年女子 | 少年男子 | 少年女子 |
|-------|-------|---------|---------|-------|
| L予選 | 5.13b | 5.12c/d | 5.13a | 5.12c |
| L決勝 | 5.13c | 5.12d | 5.13b/c | 5.13a |

※参考 新潟国体

| (平21) | 成年男子 | 成年女子 | 少年男子 | 少年女子 |
|-------|-------|-------|---------|---------|
| L予選 | 5.13c | 5.12c | 5.12d | 5.12c |
| L決勝 | 5.13c | 5.12d | 5.13b/c | 5.12c/d |

予選完登者は、成年男子7名、成年女子2名、少

年男子0名、少年女子8名、決勝完登者は全種別を通じて山口県少年女子の小田選手1名のみでした。成年男子は安間選手に合わせた高いグレード設定となり、決勝では完登者は0名でした。成年女子は昨年優勝の茨城県の野口選手が出場しなかったため榊原、梶山選手を中心に混戦模様となり、決勝では完登者は0名でした。少年男子は実力が伯仲しているため、予選、決勝ともに厳しいグレードとなり、予選、決勝とも完登者は0名でした。少年女子は小田選手に合わせたグレード設定で、決勝では小田選手のみが完登しました。成年男子宮城県チーム（松島、堀選手）と少年男子千葉県チーム（羽鎌田、村井選手）は昨年の雪辱を果たし、成年女子の神奈川県チーム（遠藤、佐藤選手）は嬉しい初優勝となりました。少年女子の山口県チーム（大田、小田選手）は2連覇を達成しました。

★ボルダリング競技（B競技）について

競技会場であるサブアリーナは、昨年の新潟国体会場と同じ位の広さでしたが観客が大勢詰めかけたので常に満席状態であり、立見をする人で後ろの方は大混雑でした。

今年から成年男子予選の2課題あたりの競技時間が6分となり、全種別の予選と決勝が6分間で争われました。またチームの順位付けも、昨年までの「2名の個人順位の合計」から「2名の個人成績の合計」に変更され、観客にも競技結果がわかりやすくなりました。

ボルダリング競技のグレードについては以下の通りです。（表の中の数字は級、初は初段。左から順に第1～第4課題を表しています）。全体的にグレードは昨年よりも上がりました。

千葉県国体

| (平22年) | 成年男子 | 成年女子 |
|--------|-------------------------|----------------------|
| B予選 | 4・初一・初・初+ | 5・2・3・1 |
| B決勝 | ①1/初一・初+/2段 ②初・初+/2段 | ①3/4・2/3 ②3/4・1/2 |
| | 少年男子 | 少年女子 |
| B予選 | 5・1・2・初一 | 7・4・3・2 |
| B決勝 | ①2・1 ②1/初一・1/2 | ①4・3/4 ②3・2 |

※参考 新潟国体

| (平21年) | 成年男子 | 成年女子 |
|--------|------------|------------|
| B予選 | 4・初一・2・初一 | 5・2・3・1 |
| B決勝 | ①1・初+②1・初一 | ①3・2②2+・1+ |
| | 少年男子 | 少年女子 |
| B予選 | 4・2・3・1 | 5・3・3・4 |
| B決勝 | ①2一・1②3・初 | ①4・2②3・1 |

予選課題の全一撃完登者は、成年男子は堀、茂



成年男子リード優勝の宮城県（松島・堀）

垣の2選手、成年女子は遠藤、榊原の2選手、少年男子は0名、少年女子は小田選手1名でした。

決勝課題は、かなりハイレベルであり、全一撃完登者は全種別ともありませんでした。成年女子決勝の第1課題は3/4級の設定で両手ランジ系であったため、男子が行うと簡単だということでしたが成年女子選手には誰一人ボーナスポイントも取れない厳しい課題となりました。成年男子は栃木県チーム(安間、柴田選手)、成年女子は北海道チーム(萩原・坂本選手)、少年男子は千葉県チーム(羽鎌田、村井選手)がそれぞれ嬉しい初優勝となりました。少年女子の山口県チーム(大田、小田選手)は、ボルダリング競技が始まってから山口県勢として3連覇を達成しました。

★男女総合成績、女子総合成績について

男女総合成績(天皇杯)は、地元千葉県が昨年の全種別全種目決勝進出での初優勝に続き、今年も成年男子のボルダリング以外は全て決勝進出という圧倒的な強さで、2位の宮城県に40点もの大差をつけて2年連続の男女総合優勝を果たしました。特に幕張総合高校の羽鎌田直人選手と船橋東高校の村井隆一選手の少年男子チームがリード、ボルダリングともに制して2冠を達成したことが千葉県の天皇杯獲得の原動力となりました。さらに国体常連の成年男子の伊東秀和選手と渡辺数馬選手のリード競技2位入賞も優勝に花を添えました。3位には来年度開催県である山口県が入りました。特に山口県少年女子は、防府高校の小田桃花選手と新南陽高校の大田理姿選手を擁し、リード競技では大会2連覇、ボルダリング競技も大会3連覇という偉業を成し遂げました。来年の地元山口県開催での活躍が期待されます。

女子総合成績(皇后杯)も地元千葉県が総合力で上回り、2位の山口県に12点差をつけて2度目の女子総合優勝を果たしました。来年の山口国体で、地元開催の山口県が天皇杯2連覇中で勢いのある千葉県勢とどのような戦いを見せるか今から楽しみです。なお、大会の詳しい競技結果につきましては、日山協のHPをご覧ください。

★運営・規則改正について

昨年の新潟国体では、選手、監督が計画輸送バス

に乗車せず、早めに競技会場に車で来て他の種別の競技を見学するというケースが見られたということで、今年の千葉国体では競技性を高めるために全て計画輸送に従うことを徹底しました。試合が午後からだといって、午前中に他の種別の競技を見学に来るチームが何チームか見られましたが、現認したチームは全てイエローカードの対象としました。宿舎での待機、計画輸送もアイソレーションを兼ねています。今後の国体でも計画輸送に従わずに競技の根幹に関わる違反をした場合は、失格も含めた厳正なる対処をします。

また、今年からトレーナーの帯同をアイソレーションや宿舎について認めるようにしました。各班の終了通告について放送をもって代えるように規則を改正し、競技が終わった選手はすぐに観客席に戻り、トレーナーのマッサージを受けられるようになりました。

今大会で最終日の決勝後にドーピング検査が実施されましたが、文部科学省から出されたドーピング防止規則に関して選手、監督は最新のドーピング防止研修会に積極的に参加して情報を常に入手して欲しいと思います。

また、平成25年度の東京国体から、監督は日体協の公認指導員資格を取得していないと参加できなくなりました。昨年の日山協ブロック研修会や今年の4月の日山協競技委員総会等でも説明してきていますし、今大会の監督会議の時にも日山協の永井指導委員長に説明して頂きましたが、東京国体から資格が必要だと知らなかった監督がまだ1/3もいました。資格取得には最低2年かかりますので、各都道府県での周知徹底と取得に向けての取り組みが急務となりますのでよろしくお願いたします。ただし、既存の日体協公認山岳指導員資格(アルパイン資格)をお持ちの監督の方であれば問題なく参加できることは申し添えておきます。

リード競技とボルダリング競技の2種目になってから3年目を迎え、山岳競技規則集も新しく改訂され、ようやく地に足がついた国体としてゆめ半島千葉国体を無事に終了することができました。大会最後の総合閉会式では、全競技選手を代表して山岳競技少年男子の千葉県代表である羽鎌田直人君が秋篠宮殿下から天皇杯を受け取ったことや、史上初めて国体記念切手の図案に山岳競技が取り上げられたことも山岳競技にとって朗報となりました。これも地元の印西市実行委員会を始め、千葉県山岳連盟やボランティアの皆様のご尽力があつての結果だと思えます。関係された皆様心から御礼申し上げます。今後とも皆様のご多幸とご健勝、ご活躍をお祈りしております。素晴らしい大会をありがとうございました。(国体山岳競技会総合成績は15頁に掲載)

2010年9月11日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された「The Expedition Day」は、山で様々なアクティビティを実践している人、エッジでエキストリームな心と行動、ワールドワイドな活躍がキーワードとなった。

集まったのは、カメット南東壁で日本人初のピオレドールを受賞した平出和也さんと谷口けいさん、ビッグマウンテンスキーヤーであり山岳ガイドの佐々木大輔さん、トレイルランニングや山岳競技スキーで活躍する佐藤佳幸さんと間瀬ちがやさん、そしてトラッドクライミングの聖地UKでも評価の高い高校生、中嶋徹さんだ。観衆は約250人。

会の前半でそれぞれの活動を発表し、後半は筆者がコーディネーターとなり「なぜあなたはextremeにチャレンジするのか」という座談会を行った。以下、出演者発言の一部。

○平出和也さん 経験を積むことによって、未踏の壁にもラインを見出せるようになった。進退の判断基準のひとつは、楽しめるかどうか。登る山にもパートナーにも国境はない。外国人と登る楽しさも面白い、これからも杵を作らず、登っていきたい。

○谷口けいさん 好きで始めたアドベンチャーレースやMTBが、バランス感覚を養い登山に役立つトレーニングになった。夜通し走るアドベンチャーレースではスピードもついたり、自分の身を守るのであれば闇の中も行動してよいと知った。未知の世界は、驚きやショックも多いし自分の弱さも知ることが、感動も大きい。

○佐々木大輔さん 街や夏山を歩くときも常に自分の重心を意識している。スキーは重力がかかるので、少しでも重心がずれると、エキストリームの場合吹っ飛んでしまう。判断は頭で考えては間に合わない。自然と体が動くのには、経験によって感覚を磨くしかない。

○佐藤佳幸さん アドベンチャーレースや山岳スキー競技は観客には見えないシーンも多い。感動や魅力を動画や写真で伝えたく、カメラマンを生業としている。イタリアの山岳スキー競技の草レースを廻っていた頃、ヨーロッパの山岳スキー競技の文化の奥行きに驚かされ、また楽しませてもらった。そういった背景も伝えていきたい。

○間瀬ちがやさん 何日間にも及ぶ長いトレイルレースであっても、自分に降りかかる危険については把握できる範囲内で遊んでいる感覚。43歳になりたいま私にできるのは、若い人たちに山の中で楽しく遊ぶ方法や魅力を伝えること。山岳スキー競技はまだこれから。いろいろな人に教わり、それを素直に受け止め、これからも成長していきたい。

○中嶋徹さん トラッドクライミングの魅力は、冒険的な点。リスクを負い苦しみや困難もあるが、それがあってこそ、喜びがあるのだと思う。クライミングは死ぬまで、僕の中の楽しみであってほしい。

6人の活動の場はそれぞれであるが、行動に杵を作らず、自分の思いに誠実に山に向かっていくという共通点があり、会場に集まったみなが大いなる勇気をもたらした。
(文=柏澄子)



▶熱心に聞き入る聴衆

▼パネリストの方々



第1回視覚障害者クライミング世界選手権大会 2010
1st BLIND CLIMBING WORLD CHAMPIONSHIP 2010

2010年12月4日(土)～5日(日)

大会ウェブサイト: <http://www.jma-sangaku.org/theblind/j/>

第23回 Mountain World

シェルパの名前を忘れるな

池田常道

現代のヒマラヤ登山では、ごく一部を例外として、シェルパの協力が不可欠だ。かつては荷揚げ要員に過ぎなかった彼らも、いまでは先頭に立ってルートを拓き、隊員を頂上まで導くガイドとして活躍している。これは、なにも商業公募隊に限ったことではなく、プライベート・チームでもふつうに見られる現象だ。BCから頂上まで、いまや彼らの存在抜きに語れる登山は、ほとんどないといっている。

ネパールやチベットはもちろんのこと、パキスタンの山にまで、シェルパを同行して登山する隊が増えている。また、パキスタンの高所ポーターにも、シェルパ同様に活躍する者がいる。ところが、それぞれの登山報告を見ていくと、故意か偶然か、彼らの存在をことさら無視するような書き方をしているものが少なくない。

近頃は、いちいち公式な報告書を出すことも少なくなり、登山隊のホームページやブログ、あるいは雑誌やAAJのような年報に載る記事から登山内容を知るのだが、身内の隊員名は記してもシェルパについてはただ人数だけを書いて済ませている例がある。「〇〇と××の両隊員がシェルパ何名と登頂した」といった具合だ。ひどい場合は、シェルパと一緒に頂上に立ったにもかかわらず、それを明記していない記録もある。

ネパール・ヒマラヤに関しては、エリザベス・ホウリー女史がシーズンごとに詳細なデータをまとめているので、それを見れば登頂したシェルパの氏名を把握することもできるわけだが、第一報の時点では無視されることが多い。最近ではめったに載ることもなくなったが、それを元に配信される通信社や大新聞の記事も同様だ。

エヴェレストなどの大規模な公募隊は、さすがにきちんとシェルパの氏名を記しているが、小規模公募隊やプライベート・チームはけっこうおろそかにする傾向がつよいという印象だ。

*

つい最近もこんなことがあった。

ニュージーランドのプロガイド、マーティ・シュ

ミットは11月初めアマ・ダブラム（6812m）に登り、「今シーズンの初登頂に成功した」と自らのホームチームに告げた。しかも、「途中で終わっていたルート仕事を自分が頂上まで完成させた」と誇らしげに公表したのだ。

これに敢然と異議を唱えたのがアンカジ・シェルパだった。彼は、シュミットの報告を引用したExplorersWebにEメールを送り、記事の訂正を求めた。曰く「マーティの記述は、われわれシェルパを勘定に入れないつもりなら正しい」といい、当日は彼自身を含む複数のシェルパが関与していたことを明らかにしている。

それによると、今季のアマ・ダブラムでは、モンテローザ・トレック所属のシェルパがC2までフィックスし、その後ヒマラヤン・アッセント、アドヴェンチャー・コンサルタンツ、ヒマラヤン・ガイズ、サミット・クライムの各公募隊から派遣されたシェルパたちが協力してルート工作にあたったという。ラクパ・シェルパのリードでロープを延ばしていったものの、日没のため頂上まで張ることができずに中断した。

数日後、居合わせたシュミットにビレイしてもらってアンカジが頂上までルートを完成させた。アンカジの仲間ツイリン・シェルパも後続し、そのあとから3人のクライアントも頂上に立ったのだという。したがって登頂した順番はアンカジ、シュミット、ツイリン、そしてアンカジの率いたクライアント、レニー・ジャクソン、スティーブ・アンダーソン、ジェイミー・アンダーソンだったということになる。

*

アマ・ダブラムのように毎年多数の登山者に登られている山で、シーズン初登頂という事実にとことさら意味があるとは思えないが、シュミットに無視されたことがアンカジのプライドを傷つけたのだろう。彼はこうも書いている。

「われわれシェルパは、所属する隊が異なってもつねに一致協力してルートを拓く。だれが一番に登ったかなどと些細な点にこだわるものではないが、マーティの報告は、シェルパたちの心情を逆なでするものだ」

シュミットほど極端ではないにしても、シェルパや高所ポーターの行動や登頂の事実を（無意識に？）等閑視した報告は、日本隊にもときどきある。シェルパの世話になったとて、なんら恥じることはない。正確な報告が一番なのだ。

2010年度国際山岳連盟 UIAA 総会報告

10月8日と9日イタリアのアルプス山麓のリゾート・ボルミオで2010年度国際山岳連盟UIAA総会が開かれ、日山協からは田中会長と国際交流常任委員笹生が参加した。

8日の理事会は、数年来続いた内部対立や競技団体の退会などの摩擦となる動きが消え、静かな議事運営で始まった。UIAAの活動の核としての委員会活動の見直しがすすみ、遠征委員会は廃止され他の委員会では、今まで以上に積極的な取り組みが見られるようになった。田中会長が「UIAAは、世界の山岳界の為に、登山者や、加盟団体から求められる組織としての役割を果たさなければならない。その原点を忘れずに組織改革に取り組み、活動方針を立てなければならない」と発言したのは、こうした動きを基底で支える考え方として多くの賛同を得た。

翌9日、理事会に続き総会が開かれ52団体115名の参加で過去最大の出席数となった。

会長報告では4年の任期の総括が語られ、過去の混乱を乗り越え登山界の発展のために働こうと呼びかけた。さらに、数年前に脱退したドイツとオーストリアの連盟と友好的な接触があり、近い将来の復帰の可能性もあるとの事であった。そのドイツ山岳会前代表が総会会場に顔をみせ、顔なじみの各国代表に暖かく迎えられた。事務局長が松本総会に来日したスタッフオードさんからドイツ人男性インゴ・ニコライ氏 (Ingo Nicolay) に交代した。彼はドイツ山岳会加盟の山岳会を率いているとのことで、これもドイツ山岳会復帰への大きな流れにつながると思われる。こうした流れを受けて総会では、「以前加盟していた団体の復帰は、優先的にとりあつかわれるべし」との動議が満場一致で可決された。

国際山岳ガイド連盟も顔をみせたが、モチマー会長は、こうした山岳関係団体と友好関係を築いてゆく方針を明らかにした。

さらに高所でのトレイルランのワールドカップを実施



する国際スカイランニング連盟が賛助会員として加盟した。今後、トレイルランをどのようにUIAAの中に組み入れて行くのか注目される。ISMF山岳スキー競技連盟の会長もスペイン山岳会の代表の一人として顔を見せ出席者から和やかに迎えられた。

ツアーオペレーターや山小屋に発行するエコレーベルの骨格が明らかになり、しっかりと戦略が確定すれば、UIAAの新たな収入源になるのではと期待されている。

今回は、会長改選と常務理事半数の改選期にあたり、会長選では対立候補が無くカナダのマイク・モチマー氏が満場一致で改選された。常任理事にはスペインのジョルディ・コロマーとハンガリーのピーター・ファルカルがそれぞれ再任された。KAF会長でUAAAの会長でもあるリ・インジョン氏も常務理事に立候補したが、惜しくも当選されなかった。

イラン選出理事の任期途中での退任を受けて、理事補選があり韓国KAFの女性、クリスチャン・ペーさんが選出された。韓国は今年から、アイスクライミングとユース委員会にも新たに委員を送り込み、積極的な動きが目立った。

アイスクライミングでは、昨年就任したロシア人委員長が積極的で、2014年ソチで開かれる冬期オリンピックでデモンストレーション競技としての実施を目指すと言った。既に組織委員会と接触しているとのことであった。来シーズン、世界選手権と5戦のワールドカップ戦が予定され、アジアで初のワールドカップ韓国で1月8、9日実施される。日本からの参加に関心を示す選手もいるようで日山協としても、選手と、国際の双方に対応できるしっかりした窓口が必要であろう。

英国山岳連盟BMCから出ているダグ・スコットから、壁にボルトを打ちまくる風潮に警鐘をならす トラディショナル・クライミングの勧めーボルトのない自然のままの壁を伝統資産のように守るべきだとの訴えがあった。これを受け、UIAAでは、各国の現状と意見の集約



から提言まとめる特別調査委員会を設けられることになった。ダグ・スコット氏は日山協に委員参加を求めている。山と社会との関わりを考えるアクセス委員会でも日本からの情報提供と、情報交換を求めている。これまで医科学委員会には堀井昌子先生が、安全委員会には小野寺齊氏、登山委員会には青山千彰先生が青少年委員会には笹生が、それぞれ参加され貴重な情報受信と発信をされている。UIAAの各委員会活動は世界の登山と山岳環境問題の情報の宝庫でもあるので、日山協各位におかれても関心のある方はUIAAサイトをぜひ役立ててほしい。また、日本からUIAAへ情報発信し

たい方は大歓迎である。<http://www.theuiaa.org/>

総会の最後に名誉会員推挙の投票があり、モティマー会長から日山協元会長齊藤一男氏をと提案があり、満場一致で可決された。この背景は、モティマー会長が数年前からアジアから名誉会員を出したいと発案され、アジア山岳連盟などでも討議されてきた。田中会長から各方面に、UAAA創設の中心となられた齊藤氏がどうかと打診され、賛同を得たことが今回の結果につながった。モティマー会長も強く齊藤氏を押し下された。なを来年のUIAAカトマンズ総会ではNMAのアン・ツェリン氏が名誉会員に推薦される予定である。(笹生記)

平成22年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)報告書

日 時) 9月24日(金)13時～9月26日(日)12時

天 候) 快晴・晴れ

場 所) 広島県廿日市市宮島町 国民宿舎「杜の宿」
& 弥山(535m)周辺

参加者) 受講生64名(県外29+県内35)、スタッフ36名
(主催者6+講師24+スタッフ6) 合計100名

概要

昨年迄日本全国を3地区に分けて、各県教育委員会が運営していた標記講習会を、今年度からは東日本と西日本の2地区で、運営を各県山岳連盟に委託して行なう事になり、初の西部地区を広島県が受けて、9月24日(金)～26日(日)世界遺産で日本三景の宮島で国民宿舎「杜の宿」を会場に開催した。

昨年迄は受講生が20～30名と、スタッフとの比率がほぼ1対1であったが、今回は受講生64名+講師スタッフ36名の合計100名が参加した。これは広島県山岳連盟が登山インストラクター認定制度を発足させこの講習会も認定条件の一つにしている事+加盟団体でカルチャーセンターの登山講座の講師陣を沢山受講させた事もあって、県内だけで35名の多くの受講生を集める事ができ、県外と併せて64名の受講生数は画期的に多くて、国立登山研修所・日山協とも大成功だったと高い評価を頂いた。

初日、開講式では主催者の挨拶・歓迎挨拶の後、主催者と講師を紹介して講習会がスタートした。

講義Ⅰは愛知県山岳連盟の理事長でもある名古屋工業大学准教授の北村憲彦講師による「中高年登山の現状と問題点：楽しい登山とリスク」で、豊富なデータに基づく有意義な講義であった。

講義Ⅱは広島大学名誉教授で医学博士の渡部和彦講師の「高齢者の体力、運動能力、危険回避能力の向上」で、スキージャンプでオリンピック選手指導の実績も踏まえての講義であった。

その後は地元大聖院の吉田座主さんに「宮島の歴史



(故事・由来)について」貴重な講話を頂いた。

二日目の実技では通常のルート以外に普段登らないルートで、7時間隊・5時間隊・4時間隊の3隊を設定して、海拔ゼロから標高535mの弥山への登山と瀬戸内海の展望を楽しみ、参加者から喜ばれた。

実技では、低体温症の解説と共に、緊急対応として現場に持参している物を利用してのブルーシート(100円ショップで購入)とテーピングテープを利用しての簡易ツェルトを皆で作成した。

講義Ⅲは広島県山岳連盟の顧問弁護士でもある溝手康史講師の「リーダーの責任と法律」で、難しい法律問題を具体的な事例を交えて解説頂いた。

夜は懇親を兼ねた情報交換会で、豊田事務局長のユーモアあふれる司会で、各県毎(広島県は加盟団体毎)に一言スピーチや出し物で、交流を図った。

最終日の研究協議では5テーマで募集したが、「中高年登山指導者講習会の今後の取組み」「指導員(山岳)の役割と有効活用」は希望者が少ないので統合して、「中高年登山でのリーダーの現状と今後の課題」「中高年登山者の高齢化についての現状と今後の課題」「ツアー登山参加者の意識とツアー会社の認識」の4分科会にまとめてさせて実施した。

これらの問題は結論の出る内容では無いものの、①この事業を含めた一般登山者への普及、②中高年の名称による参加者の誤解、③ツアー会社との認識の共通化等課題が明らかになり、全体会議で各分科会リーダーから報告された。

閉会式では、一番遠隔地の沖縄県から参加の仲間さんに修了証が手渡され、閉会式後は宮島の大鳥居が見える浜辺に移動して全員で記念撮影後、解散した。今回の講習会が中高年の事故防止に少しでも役立つ事を祈っている。

以上
 (広島県山岳連盟 副会長 野島 信隆)



GPS登山地図

Gnavi 「GN-01」

パソコン用デジタルマップ標準装備

「道迷い遭難」には登山用GPS



登山地図4,342面を収録

<http://svgnavi.jp/>

携帯電話auでGPS登山ガイド

山と写真ガイド

豊富な登山と写真記事を掲載

圏外で使えるケータイGPS

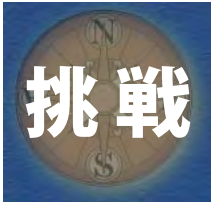


au携帯電話より登山
全119エリア等高線地図

<http://yamanavi.jp/>

BLC BUSINESS LINK CORPORATION

「G-navi」、「山と写真ガイド」に関する情報は各ホームページへ
 お問い合わせ 株式会社 ビジネスリンク TEL:03-3475-0454



キルギス 登山ガイド・ポーター協会奮闘記

第3回 キルギスのガイドの問題点とその解決に向けて

キルギス共和国山岳協会

(独立行政法人 国際協力機構 (JICA) より青年海外協力隊として派遣)

鈴木翔太

この夏は、4月の政変と6月の南部地方での騒乱の影響で例年より観光客が減ってしまい、キルギスの観光業にとっては難しいシーズンでした。しかしながら、それでも日本から数グループのお客さんが来て下さり、ガイドと共にカラコル周辺の山々や湖をご案内することができました。世界中の山々を踏破された経験豊かなお客さん方によると、総合的に見てキルギスの山々はカナダに似ているそうです。

岩と雪の荒々しい山容、エメラルドグリーン湖、幾つもの氷河、多種多様な高山植物等々。特に、キ



アラコル湖



お客様とガイドとポーターと



ピーク・ナンセン (5,697m)



南インリチェック氷河

咲き乱れる高山植物



ルギスはそれらが一か所でまとめて楽しめ、車で入ることのできるポイントからも歩いて至近のところが良い点であるとコメントを頂きました。

そのようにガイドと一緒に働く中で、ルートがトレッキング・レベルであれば特に問題はないのですが、ロープ使用等の登攀の要素が入ってくると幾つかの問題点を感じるがありました。一つの問題点としては、ホスピタリティーがもっと必要であることです。例えば、入り組んで先が見えない岩場で、ガイドはお客さんとアンザイレンをした25mロープをいっぱい伸ばした状態でコンテで進もうとしていました。しかし、お客さんが難しい箇所では慎重に進もうとしていたり、岩に引っかかっているロープを外そうとしたりしている場合でも、ガイドからは様子が見えないので上からグイグイ引っ張り、よけいに危なくなることもありました。また、エイト環使用での懸垂下降をした経験のないお客さんに、一番最初に降りるのが一番安全だという理由から、エイト環で降りさせようとしたこともありました。このような場合でも、ガイドとしては自身の過去の経験や知識からもっとも安全と考えられる選択をしていると思うのですが、もっとお客さんの視点に立って、お客さんが不安に思わないようなガイディングをしてあげるべきではなかったかと思えます。

もう一つの問題点としては、旧ソ連式の古いクライミング技術への固執(過度な自信)がありました。旧ソ連式であれ安全が確保されていれば問題ないと思いますが、クライミングの道具は日々進化してお

り、より確実に安全を確保するためにその道具を取り入れたり、新しい技術を学ぼうとする姿勢は、お客さんの安全を最優先に考えるべき登山ガイド業としては必要不可欠なはずだと思います。

これらの問題点を解決し、キルギスのガイドの質を上げるにはどうすればよいか色々考えた末、この10月、イシククル州登山ガイド・ポーター協会から首都にあるキルギス共和国山岳協会に活動先を変更し、そこで全国規模の登山ガイド育成システムの整備・強化を行うことにしました。山岳協会では、既にスイスの登山用品メーカーのマムートの協力の元、スイスやイギリスから講師を呼んでガイドの育成を始めており、これからはそのシステムがよりよい形で持続していくように活動をしていきたいと思っています。



イヌワシと

●プロフィール● すずき・しょうた

◎1983年生まれ。国際基督教大学(ICU)ワンダーフォーゲル部出身、東京ヤング・クライマーズ・クラブ(YCC)所属。大学卒業後、開発途上国の人材育成を支援する財団法人に勤務。2009年秋よりJICA青年海外協力隊として、中央アジア・キルギス共和国のイシククル州登山ガイド・ポーター協会に派遣されていたが、2010年秋より活動先を変更しキルギス共和国山岳協会にて働いている。詳細・照会は協会のHP(<http://www.kac.centralasia.kg/>)、またはメール(shota.suzuki@gmail.com)まで。

平成22年度(2010)「SC上級指導員養成講習会、福井」報告

期日 平成22年10月9日(土)～11日(月)

会場 福井県、福井県立青少年センター及び
福井県立クライミングセンター

出席者

○日山協

永井豊指導委員長、同常任委員井納吉一、愛知県主任検定員佐原晴人 3名

○SC上級指導員養成講習会参加者 8名

《第1日目》

10:30 福井県立青少年センターにて受付開始

11:00 開講式

挨拶 永井豊指導委員長、福井県山岳連盟会長
牧野治生

11:10 オリエンテーション 永井 豊

平成25年度の東京国体に合わせ競技に関し指導員

の必要性、スポーツクライミング人口の普及に伴い指導員、上級指導員の立場、取得までの流れを説明。

12:00～12:40 昼食

12:40 机上講習

*スポーツ医学について(神尾重則氏)
DVDにて1時間18分上映

14:10 机上講習

*クライミングと法律(下越田功氏)
DVDにて1時間上映

15:20 机上講習

*スポーツクライミング競技について
佐原晴人講師にてリード及びボルダリング競技やルールなどビデオプロジェクターや資料により講習を行った。



16:00 机上講習

*スポーツクライミングにおける指導法
井納吉一講師によりビレイデバイス、ハーネス、ロープ、キックドロウなど指導者としてどう説明するかなど講習を行った。

16:40 宿泊施設（水仙荘）へ移動

17:40 宿泊施設到着、夕食及び懇親情報交換会を行った。

《第2日目》

7:30 朝食

8:00 福井県立クライミングセンターへ移動

9:00 クライミングセンターの屋内人工壁にて実技講習
井納、佐原講師にて確保、スポットの理論、実技の講習を行う。

11:30 昼食

12:30 クライミング及び確保の実技検定を行う。
ボードには、5.11aとあるが登ってみて11bはあると思われるがリードと確保をそれぞれ1度ずつ行い検定をした。7名中2名がトップアウトできなかったが、クライミングのレベルは十分にあると判断した。



14:00 ルート、グレード課題のセッティング

ボルダー壁にて受講生各自、グレードと課題を決めルートセットを行った。

16:00 宿泊施設へ移動

18:00 食事及び情報交換会を行った。

《第3日目》

7:30 朝食

8:00 福井県立クライミングセンターへ移動

9:00 各自ストレッチを行った後、前日に設定したルートを受講生それぞれ登ってもらい、そのルートのグレード、課題について評価をして用紙に記入してもらった。

12:00 昼食

13:00 理論検定

会場の都合により控室が使えなかったため、天気も良いのでウォールのステージで理論検定を行った。

14:30 永井豊により閉講式を行い3日間の講習会を終えた。

講習会を終えて

今回、福井でのSC上級指導員養成講習会は永井、佐原と私の3名の講師で行いましたが受講生が7名と少なかったため目が行き届き中身の濃い講習会が行われたように感じました。今回の開催に当たり、受講生募集中においてクライミンググレードが5.11aに満たない（アルパインIV級クラス）方々にはスポーツクライミングの趣旨を説明し、辞退していただいた経緯もあり受講生のほとんどがハイレベルのクライミングを行っているので実技検定などは問題なく行われたが、今後、指導法にもう少し時間をかけた方が良いように思われました。

なお今回、主管していただいた福井山岳連盟の方々には宿泊施設や懇親会などを盛り上げていただき感謝いたします。
(記 井納)

日時 平成22年10月14日(木)
17:30～21:00
場所 岸記念体育会館504会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、
粟飯原副会長、神崎副会長、本
木副会長、西内、仙石、佐藤、
高山、堀井、青木、尾形、相良、
寺内、永井、長谷川各常務理事
委任 佐藤常務理事
(18名中17名出席)

1. 専門委員会動静

9月常務理事会以降

(9月9日～10月13日)

〔報告〕

- (1)遭難対策委員会 9月12日(日)
出席者13名
ア レスキュー講習会反省・感想
について
・縦走にレベルアップクラスが欲
しい。講習の実施回数を増や
して欲しい要望があった。(レ
ベルアップは検討。回数はプロ
ックや複数岳連単位で要望あれば
派遣する、と回答)
・チームは技術に差があった。仕
事に活かしたいと云う人と習慣
参加の覚悟の差。
・モンベルの若い人たちが参加し、
活気ある講習会となった。P R
方法を見直す必要あり。
イ ロープ、結束などの強度試験
について
・10月30日(土)～31日(日)、国立登
山研修所で実施
ウ その他
・消防庁の山岳遭難事故でのヘリ

運用見直しは、西内が参加（恵
氏に代理依頼）
・日中韓レスキューセミナー（11
／16～22、中国）小野寺、
町田（幸）、一本松派遣
・スティーブ・ロング氏が9月ア
ジア、10月カナダで不在につ
き、英国往訪は春に延期

(2)国際委員会 9月14日(火)
出席者7名

ア 海外登山クロニクルトーク
ショーについて

・TheHimalayanDay（兼 第24回
海外登山女性懇談会）の講師に
ついて

イ 新常任委員の紹介について
ウ 海登研の開催（1／30）に
ついて

・講師依頼、要項作成について
エ JACとの合同委員会について

・10／8、JACルーム
オ 専門委員会のH P 担当者につ
いて

カ その他
・パキスタン水害義援金の協力の
件

・50周年記念事業の件
(3)競技委員会 9月16日(木)
出席者12名

ア 8月常務理事会報告
イ 平成22年ルートセッター合
格者・昇級者の報告

ウ 千葉県体抽選会報告
エ 山口県の選手の参加資格の疑
義について

オ 2011ワールドカップ（印西

市）の進捗状況について
カ 第1回ブラインドクライミング
世界選手権の進捗状況について
キ 後催県の準備状況について
千葉県：公開練習日（9／1
～19）、県内役員最終研修会（9
／20）

ク 平成25年度東京国体からの
監督に対する日体協指導員資格
の保有義務付けに対する対応に
ついて

ケ 第1回全国高校生クライミン
グ選手権大会について

コ 平成22年度アイスクライミ
ング大会について

サ 11月の競技委員研修会につ
いて

(4)指導委員会 10月4日(日)
出席者9名

ア 9月の議事録確認
イ 指導常任委員研修会について

・9／11～12、丹沢山岳スポ
ーツセンター
ウ 事務報告

・講師養成講習会ほか
エ スポーツクライミング上級指導
員養成講習会（福井）について

オ スポーツクライミング上級指導
員養成講習会（宮城）について
カ 登攀技術研修会について

・11／20～21、国立登山研修
所

キ 遭対委員会からの申し入れ事
項について

・日中韓国際救助技術セミナーへ
の派遣について

・UIAAスタンダード並びに英国

寄贈図書

●寄贈本●

岩崎元郎 山のぼりの作法
日本勤労者山岳連盟「ハイキン
グ セカンド・ステップ」「ハ
イキングA・B・C」

●雑誌●

東京新聞出版部 岳人 11月号

山と溪谷社 山と溪谷 11月号
中国登山協会山野 10月号

●会報●

(株)日本山岳協会自然保護委員会
(財)健康・体力づくり事業団
パナソニック山岳会
兵庫県山岳連盟
横浜山岳会
韓国山岳連盟
富山コンベンションセンター

(財)日本ゲートボール連合
高校生新聞社
国立公園協会
(株)日本武術太極拳連盟
大阪府山岳連盟
大韓山岳連盟
(財)全日本ボウリング協会
(株)日本パワーリフティング協会
群馬山岳連盟
日本勤労者山岳連盟
埼玉山岳連盟

(財)日本卓球協会
近畿山岳愛好会
日本ヒマラヤアドベンチャー・トラスト
(株)日本山岳会
(株)国土緑化推進機構
東京野歩路会
新潟県山岳協会
やまびこ山想会
日本山岳写真協会
愛知県山岳連盟

【50周年記念募金協力者ご芳名】

(11月8日現在)

30口：三井住友海上火災保険、20口：内藤順造、10口：中島龍、本木總子、8口：やまびこ山想会、6口：宮城県山岳連盟、4口：高知県山岳連盟、加須市山岳連盟、粟飯原一成、3口：山口定男、2口：吉川博、城内泰司、田久保勇治、山本正嘉、石森長博、中川武佑、小野寺斉、鈴木由郎、島村光昭、溝上春児、相原淳一、矢島榮、三ツ木達男、土屋正昭、森修作、二木節夫、小鹿野山岳会、工藤文昭、山田信明、山口県山岳連盟、新井宏司、北村憲彦、宮本数男、西原斗司男、金沢信二、1口：岩崎繁夫、戸田市山岳連盟、竹浪良造、角掛喜美夫、梅山義弘、山口泰雄、小原美子

総額：834口・417万円

と映画会) (宮城大会)

10月9日(土)～10日(日)

於：この花さくや姫プラザホール・栗駒山

本木副会長、尾形常務理事

(2) スポーツクライミング上級指導者養成講習会

10月9日(土)～11日(日)

於：福井県立クライミングセンター
永井常務理事、井納常任委員他
競技常任委員1名、参加者7名

(23) 『登山研修』編集会議

10月12日(火)

於：国立競技場会議室

田中会長、尾形常務理事

3. 議事

(1) 平成22年度9月常務理事会議事録の承認について (承認)

(2) 平成22年度臨時理事会議案について (一部訂正で承認)

(3) 50周年記念功労者表彰 (提案の358名を承認。引き続き未提出及び推薦の少ない岳連・協会に打診することで了承)

(4) 50周年記念式典・祝賀会について (案内状の一部訂正で承認)

(5) 報告事項

ア 会計月次報告

イ 平成22年度専門委員会常任委員について

ウ U I A A 総会報告

エ 50周年記念事業について

オ 平成23年度山岳遭難・搜索保険について (契約プラン2で了承)

カ 平成22年ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレン

- 登山教育事情視察のについて
- ・ロードセルを使用した強度・荷重試験について
- ケ ハイキング指導者養成について
- コ 指導要項改訂版について
- (5) 国際委員会 10月8日(金)
出席者9名
- ア EXPEDITION DAY (9/11)の
会計報告と総括について
- イ HIMALAYA DAY (12/5)の
進捗状況について

2. その他の重要事項

(9月9日～10月13日)

【報告】

- (1) 世界ユース選手権
9月9日(木)～12日(日)
於：英国・エジンバラ
選手14名、スタッフ5名参加
- (2) レスキュー (無雪期) 講習会
9月10日(金)～12日(日)
於：国立登山研修会
西内常務理事、受講者24名
- (3) 海外登山クロニクル・トーク
ショー「The Expedition Day」
9月11日(土)
於：国立オリンピック記念青少年総合センター
内藤、神崎副会長、青木、尾形常務理事他国際常任委員、参加者121名
- (4) 自然保護委員総会
9月11日(土)～12日(日)
於：柏崎市・じょんのび温泉施設
田中会長、本木副会長、長谷川常務理事、
参加者135名
- (5) 山岳遭難・搜索保険打合せ
9月15日(木)
於：三井住友海上火災保険 内藤副会長、尾形常務理事
- (6) 三大峠トレッキング参加者説明会
9月15日(木)
於：風の旅行社 尾形常務理事
- (7) アジア選手権
9月15日(木)～19日(日)
於：中国・長治
北山常務理事、篠崎常任委員、
選手10名
- (8) 平成23年和歌山県ゴールデンキッズプロジェクト 9月19日(日)
於：和歌山市
西谷競技常任委員
- (9) I F S C イベント実務者会議
9月24日(土)～25日(日)
於：ベルギー・Puurs
小日向常任委員
- (10) 中高年安全登山指導者講習会 (西部地区)
9月24日(金)～26日(日)
於：国民宿舎みやじま杜の宮・
宮島弥山周辺
粟飯原副会長、仙石常任委員、
参加者100名 (受講者64名)
- (11) 第65回千葉国体総合開会式・
大会役員懇談会 9月25日(土)
於：ホテルニューオータニ幕張
田中会長
- (12) 近畿地区自然保護連絡協議会
9月25日(土)～26日(日)
於：奈良県・大台ヶ原
長谷川常務理事
- (13) 自然公園財団平成22年度第3
回理事会 9月29日(水)
於：法曹会館 田中会長
- (14) 「山はみんなの宝・全国大会」
事務局会議 9月30日(木)
於：山のエコー事務局
松隈常任委員
- (15) JOC オリンピック・シュミレー
ション・フォーラム 10月1日(金)
於：味の素ナショナル・トレセン
中川事務局員
- (16) 第65回千葉国体・山岳競技
10月2日(土)～4日(日)
於：印西市
田中会長、内藤、本木副会長、
高山、北山、寺内常務理事
- (17) U I A A 総会
10月6日(水)～10日(日)
於：イタリア・Bormio
田中会長、笹生常任委員
- (18) 山岳遭難・搜索保険打合せ
10月6日(水)
於：事務局 尾形常務理事
- (19) 公益法人化打合せ 10月8日(金)
於：岸記念体育会館
北村評議員、尾形常務理事
- (20) 平成22年度中高年安全登山指
導者講習会 (東部地区)
10月8日(金)～10日(日)
於：富士北麓、人材開発センター
富士研修所
内藤副会長、西内、堀井常務理事、
参加者73名 (受講者44名)
- (21) 50周年記念「安全登山の講演

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ジ賞の候補者推薦
(事務局一任)

キ 長野県教育委員会教育長・長野県山岳遭難防止対策協会長からの登山者への注意喚起について

ク 第53回オールスポーツマンゴルフ大会について

(坂口三郎、星野光、盛晋、北見正光の4名でエントリー)

ケ 2010毎日スポーツ人賞候補者推薦について(事務局一任)

コ 第65回ゆめ半島千葉国体報告について

サ 「山はみんなの宝！」全国大会について

4. 役員等の派遣について

(1)「山の日」制定協議会

10月20日(木)

於：H A T E R J

本木副会長、尾形常務理事

(2)スポーツ振興助成事業説明会

10月27日(木)

於：国立競技場会議室

中川事務局長

(3)「新公益法人制度」説明会

10月28日(木)

於：岸記念体育会館

尾形常務理事

(4)ロープ、結束等の強度試験

10月30日(土)～31日(日)

於：国立登山研修所

西内常務理事

(5)第1回日本山岳遺産サミットin山梨 11月3日(祝)

於：山梨・甲府商工会議所

内藤副会長

(6)神奈川大学体育会山岳部創部80周年記念式典・祝賀会

11月3日(祝)

於：神奈川大学横浜キャンパス

田中会長

(7)アジア競技大会結団式

11月6日(土)

於：新高輪プリンスホテル

尾形常務理事

(8)UIAA登山委員会

11月11日(木)～14日(日)

於：ロシア・モスクワ

青山常任委員

(9)50周年記念事業「安全登山の講演と映画会」(大阪会場)

11月13日(土)

於：大阪科学技術センター
山並理事

(10)日中韓国際救助技術セミナー

11月16日(火)～22日(月)

於：中国・四川省日隆

小野寺、町田(幸)、一本松常任委員

(11)登攀技術研修会

11月20日(土)～21日(日)

於：国立登山研修所 永井常務理事

(12)岡山県山岳連盟創立60周年記念式典・祝賀会 11月23日(祝)

於：ピュアリティまきび(岡山市)

田中会長、粟飯原副会長

(13)50周年記念事業「安全登山の講演と映画会」(名古屋会場)

11月26日(金)

於：名古屋 神崎副会長

(14)50周年記念事業「安全登山の講演と映画会」(広島会場)

11月27日(土)

於：広島コンピューター専門学校

神崎副会長

(15)平成22年度日山協競技委員会

ブロック研修会(東北)

11月27日(土)～28日(日)

於：宮城県

内藤副会長、永井常務理事

(16)財スポーツ安全協会第103回評議員会・第105回理事会

11月30日(火)

於：東海大学校友会館「望星の間」

田中会長

(17)「山はみんなの宝！」全国大会

11月30日(火)

於：日本青年館

第65回国民体育大会 山岳競技会

男女総合・女子総合成績(天皇杯・皇后杯得点)

| 区分 都道府県名 | 競技得点 | | | | | | 競技得点合計 | | |
|-------------|-------------|------------------------|-------------|------------------------|-------------|------------------------|--------|-------------|------------------------|
| | 成年男子 | | 成年女子 | | 少年男子 | | | 少年女子 | |
| | リ ー ド | ボル ダ リ ン グ | リ ー ド | ボル ダ リ ン グ | リ ー ド | ボル ダ リ ン グ | | リ ー ド | ボル ダ リ ン グ |
| 1 北海道 | 15.0 | 21.0 | 3.0 | 24.0 | | | | 63.0 | |
| 2 青森 | | | | | | | | | |
| 3 岩手 | | | 6.0 | 21.0 | | | | 27.0 | |
| 4 宮城 | 24.0 | 18.0 | 21.0 | 18.0 | | | | 81.0 | |
| 5 秋田 | | | | | | | | | |
| 6 山形 | | | | | | | | | |
| 7 福島 | | | | | | | | | |
| 8 茨城 | | | | | 6.0 | | 18.0 | 15.0 | 39.0 |
| 9 栃木 | 18.0 | 24.0 | | | | | | 42.0 | |
| 10 群馬 | | | | | | | | | |
| 11 埼玉 | | 15.0 | | | | 12.0 | 18.0 | 45.0 | |
| 12 千葉 | 21.0 | | 15.0 | 3.0 | 24.0 | 24.0 | 21.0 | 129.0 | |
| 13 東京 | | | 12.0 | 12.0 | | | | 24.0 | |
| 14 神奈川 | | | 24.0 | 6.0 | 12.0 | 18.0 | | 60.0 | |
| 15 山梨 | | | | | | 21.0 | 15.0 | 12.0 | 48.0 |
| 16 新潟 | | | | | | | | | |
| 17 長野 | | | | | | 9.0 | | 9.0 | |
| 18 富山 | | | | | 9.0 | | | 9.0 | |
| 19 石川 | | | | | | | | | |
| 20 福井 | | | | | | | | | |
| 21 静岡 | | | | | 18.0 | 15.0 | | 33.0 | |
| 22 愛知 | | 3.0 | | | | | | 3.0 | |
| 23 三重 | | | | | | | | | |
| 24 岐阜 | | | | | | | 9.0 | 9.0 | 18.0 |
| 25 滋賀 | 6.0 | | | | | 6.0 | | 12.0 | |
| 26 京都 | 3.0 | 12.0 | | | | | | 15.0 | |
| 27 大阪 | | | 18.0 | 15.0 | | | | 33.0 | |
| 28 兵庫 | | | 9.0 | 9.0 | | | 3.0 | 6.0 | 27.0 |
| 29 奈良 | | | | | | | | | |
| 30 和歌山 | | | | | | | | | |
| 31 鳥取 | | | | | | | | | |
| 32 島根 | | | | | | | | | |
| 33 岡山 | 9.0 | 6.0 | | | 15.0 | 12.0 | | 42.0 | |
| 34 広島 | | | | | | | | | |
| 35 山口 | | 9.0 | | | 21.0 | | 24.0 | 24.0 | 78.0 |
| 36 香川 | | | | | | | | | |
| 37 徳島 | | | | | | | | | |
| 38 愛媛 | | | | | | | | | |
| 39 高知 | | | | | | | | | |
| 40 福岡 | | | | | | | 6.0 | 6.0 | |
| 41 佐賀 | | | | | | 3.0 | | 3.0 | |
| 42 長崎 | 12.0 | | | | 3.0 | | | 15.0 | |
| 43 熊本 | | | | | | | | 3.0 | 3.0 |
| 44 大分 | | | | | | | | | |
| 45 宮崎 | | | | | | | | | |
| 46 鹿児島 | | | | | | | | | |
| 47 沖縄 | | | | | | | | | |

| 男女総合成績 (天皇杯得点) | | | | 女子総合成績 (皇后杯得点) | | | |
|-------------------|------|--------|--------|-------------------|------|--------|--------|
| 算出基礎 | | 合 計 | 順 位 | 算出基礎 | | 合 計 | 順 位 |
| 競技得点 | 参加得点 | | | 競技得点 | 参加得点 | | |
| 63.0 | 10 | 73.0 | 4 | 27.0 | 10 | 37.0 | 8 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 27.0 | 10 | 37.0 | 13 | 27.0 | 10 | 37.0 | 8 |
| 81.0 | 10 | 91.0 | 2 | 39.0 | 10 | 49.0 | 3 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 39.0 | 10 | 49.0 | 10 | 33.0 | 10 | 43.0 | 4 |
| 42.0 | 10 | 52.0 | 8 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 45.0 | 10 | 55.0 | 7 | 30.0 | 10 | 40.0 | 6 |
| 129.0 | 10 | 139.0 | 1 | 60.0 | 10 | 70.0 | 1 |
| 24.0 | 10 | 34.0 | 15 | 24.0 | 10 | 34.0 | 12 |
| 60.0 | 10 | 70.0 | 5 | 30.0 | 10 | 40.0 | 6 |
| 48.0 | 10 | 58.0 | 6 | 27.0 | 10 | 37.0 | 8 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 9.0 | 10 | 19.0 | 20 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 9.0 | 10 | 19.0 | 20 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 33.0 | 10 | 43.0 | 11 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 3.0 | 10 | 13.0 | 23 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | | | 46 |
| 18.0 | 10 | 28.0 | 16 | 18.0 | 10 | 28.0 | 13 |
| 12.0 | 10 | 22.0 | 19 | | | | 46 |
| 15.0 | 10 | 25.0 | 17 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 33.0 | 10 | 43.0 | 11 | 33.0 | 10 | 43.0 | 4 |
| 27.0 | 10 | 37.0 | 13 | 27.0 | 10 | 37.0 | 8 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 42.0 | 10 | 52.0 | 8 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 78.0 | 10 | 88.0 | 3 | 48.0 | 10 | 58.0 | 2 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 6.0 | 10 | 16.0 | 22 | 6.0 | 10 | 16.0 | 14 |
| 3.0 | 10 | 13.0 | 23 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 15.0 | 10 | 25.0 | 17 | | 10 | 10.0 | 16 |
| 3.0 | 10 | 13.0 | 23 | 3.0 | 10 | 13.0 | 15 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |
| | 10 | 10.0 | 26 | | 10 | 10.0 | 16 |



日本山岳協会創立50周年



日本山岳会エベレスト登山隊1970・エベレスト日本人初登頂40周年

海外登山隊 # クロニクル 4

ザ・ヒマラヤ・デー

参加者募集

THE HIMALAYA DAY

日時: 2010年12月5日(日) 13:30~

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

(兼・第24回海外登山女性懇談会)

プログラム

- 13:30 主催者あいさつ
- 15:25 講演1. 平井 一正 (1950年代 京大山上学会/カラコルム)
- 講演2. 中世古直子 (1974 日本女性マナスル登山隊)
- 講演3. 大宮 求 (1980 山学同志会/カンチェンジュンカ北壁)
- 講演4. 重廣 恒夫 (1995JAC / マカルー東稜)
- 講演5. 山口 貴弘 (2006 J A C 東海支部/ロツェ冬季南壁)
- 講演6. 池田 常道 (山岳誌編集者による総括)

※16時30分終了予定(敬称略)
 ※上記プログラムは都合により急遽変更させていただく場合があります。
 ※入場時に資料代として500円を申し受けます。

田中会長、長谷川常務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

- (1) 森を走ろうーアスレティックアウトドアスポーツの現状と課題ーの後援名義(承認)
- (2) ハセツネモニュメント(石碑)設立の後援名義(承認)
- (3) 2010 J F A 日本選手権大会マムートカップの後援名義(承認)

6. 報告

- (1) 自然保護指導員の承認
なし
- (2) 指導員の認定承認

- ① 上級指導員
なし
- ② 指導員

- なし
- ③ 主任検定員
なし

編集後記

お陰さまで500号の登山月報をお届けいたします。先輩方の営々としたご苦労に思いを馳せ、感謝の言葉もありません。

これからも、皆さまに毎月、楽しみにして頂けるような読み応えのある登山月報作成を心がけて行きたいと思っております。どうぞご指導ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。(広報 本木 総子記)

登山月報 第500号

定価 100円(送料別)
 予約年間 1、200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成22年11月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS® ASG-10** 販売価格 18,900円(税込)

正確な位置情報があなたを助ける!

- 3つのセンサー(加速度・方位・気圧)で正確な位置・移動情報を表示
- 事前プランニングで楽しさ倍増!
- 軌跡表示で目的地に誘導
- 23種の多彩な表示項目

株式会社 コピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33
 TEL 03-3769-2525 FAX 03-3769-2520
 お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで
<https://atlas.yupiteru.co.jp>
 ※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。



ネパールに行くなら、風の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

株式会社 風の旅行社
 観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員
 総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.0ビル 6F
TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174
 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F
TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail info@kaze-travel.co.jp

